

狭山市における環境モニターによる居住環境評価

居住環境評価 モニター 狹山市

正会員○久保田 徹^{*1}
同 三浦 昌生^{*2}
石口 大和^{*3}
石塚 理英^{*4}

1.はじめに

本研究では、対象とする地域の住民から、あらかじめ「環境モニター」としてアンケート回答者を募集し、地域の居住環境に関する自由記入式中心のアンケートに継続的に回答させることによって、地域の居住環境評価を行う方法を検討しており、これまで埼玉県下の2都市においてケーススタディを行っている¹⁾。本報では、この方法によって行った埼玉県狭山市におけるケーススタディ結果を報告する。

2.環境モニターの募集

日頃から居住環境に対する意識が高い住民からの自発的な応募が得られるよう、環境モニターの募集方法を検討した。まず、狭山市内の全世帯(約57000世帯)に月2回配布されている市報「広報さやま」の1997年8月1日号に環境モニターの募集記事を掲載した。これにより、18名からの応募があった。次に、芝浦工業大学卒業生後援会名簿から市内在住者37名を抽出し、環境モニター募集の案内を送付したところ、14名からの応募があった。次に、市内の全公民館11ヶ所に募集チラシと応募はがきを設置したが、設置期間が約2週間と短かったため2名からの募集にとどまった。その他、応募済みのモニターに紹介を依頼して得られた12名を含めた合計52名を環境モニターとした。応募者の内訳は、男性18名、女性34名であった。職業は主婦が20名と最も多く、続いて会社員が18名であった。

3.第1回アンケート

1997年9月に、挨拶状とともに第1回アンケート票を全モニター52名に郵送し、48名から回収した。ここではまず、居住年数、以前の居住地、日常の交通手段、通勤・通学時間、住まい周辺の土地利用状況など基本的な事柄を聞いた。これらの回答を参考にして作成した環境モニターのフェイスシートを表1に示す。回答者48名のうちの43名が転入経験を持ち、うち25名が居住年数が20年に満たない新住民であった。以前の居住地は、埼玉県の他市18名、東京都17名、他県8名であった。

次に、「住みやすいと感じる点・住みにくいと感じる点」として、「住まいの周辺について」、「狭山市全体について」、それぞれ自由記入欄を設けて聞いた。この質

問に対する回答には、住みやすい点では公園・緑に関する記述が、住みにくい点では道路整備状況、ダイオキシンなどの空気汚染問題、航空自衛隊基地による騒音問題に関する記述が多く見られ、これらの事柄に対する狭山市の環境モニターの意識の高さがうかがえた。最後に、意見・質問を自由記入欄を設けて聞いた。10月に、第1回アンケートの集計結果報告と集計結果に対する意見・感想を聞く自由記入式アンケート票を郵送した。

4.第2回アンケート

11月に、第

表1 環境モニターのフェイスシート

No.	募集方法	職業	性別	年齢	居住年数	以前の居住地
1	市報	主婦	女	27	5	埼玉県富士見
3	紹介	会社員	男	57	58	転入経験なし
4	紹介	自営業	女	56	28	埼玉県所沢市
6	市報	会社員	女	41	14	東京都
7	市報	主婦	女	30	7	長野県
8	市報	主婦	女	30	4	埼玉県所沢市
9	市報	主婦	女	32	3	板木県
10	市報	主婦	女	57	3	宮城県
11	市報	主婦	女	26	3	埼玉県川越市
12	市報	主婦	女	61	33	東京都
13	市報	主婦	女	30	0.7	埼玉県北本市
14	市報	主婦	女	32	2	埼玉県大宮市
15	市報	主婦	女	49	20	東京都
16	市報	主婦	女	23	2	東京都
17	市報	自営業	男	36	2	東京都
18	市報	主婦	女	47	16	大阪府
19	市報	一	男	—	15	東京都
21	紹介	主婦	女	30	24	埼玉県新座市
22	紹介	会社員	女	30	30	転入経験なし
24	紹介	自営業	男	49	16	東京都
25	名簿	会社員	男	56	22	埼玉県日高市
26	名簿	会社員	男	59	31	東京都
27	名簿	会社員	男	50	18	東京都
28	名簿	主婦	女	52	17	埼玉県所沢市
29	名簿	会社員	男	52	26	東京都
30	名簿	主婦	女	55	27	東京都
31	名簿	主婦	男	62	25	埼玉県所沢市
32	紹介	会社員	女	45	10	埼玉県所沢市
33	名簿	自営業	男	47	14	東京都
34	名簿	会社員	男	56	28	東京都
35	名簿	会社員	女	43	30	埼玉県日高市
36	紹介	会社員	女	42	22	埼玉県川口市
37	紹介	主婦	女	43	37	大阪府
38	紹介	一	男	—	38	埼玉県入間市
39	紹介	会社員	女	43	43	転入経験なし
40	紹介	主婦	女	43	29	東京都
41	紹介	主婦	女	46	19	東京都
42	紹介	無職	女	21	10	東京都
43	紹介	会社員	女	31	1	埼玉県飯能市
44	紹介	一	女	—	18	東京都
45	紹介	会社員	女	31	19	東京都
46	名簿	会社員	男	33	24	神奈川県
47	名簿	一	男	—	23	埼玉県浦和市
48	名簿	会社員	男	48	48	転入経験なし
49	公館	主婦	女	36	0.1	静岡県
50	紹介	会社員	男	25	8	埼玉県本庄市
51	紹介	一	男	42	42	転入経験なし
52	公館	無職	女	70	37	愛知県

Environment Evaluation of Sayama City by Monitors Enlisted from Citizens

KUBOTA Tetsu, MIURA Masao, ISHIGUCHI Hirokazu and ISHIDUKA Rie

結果から抽出した「ダイオキシンによる空気汚染問題」、「航空自衛隊基地による騒音問題」に対する意見をそれぞれ自由記入欄を設けて聞いた。回答の抜粋を表3、表4に示す。最後に、住みやすさの総合的な満足度、愛着度、永住希望度などを選択式で聞いたのち、アンケートに対する意見・質問を自由記入欄を設けて聞いた。

5. 第3回アンケート

11月に、第2回アンケート回答者44名に対して、第2回アンケート集計結果報告とともに第3回アンケート票を郵送し、43名から回収した。ここではまず、「狹山市へは、安全性、健康性・快適性、利便性の3項目のうちの何を求めて移り住んできたか」を聞いたのち、「居住環境を考える上でのそれら3項目の優先順位」を聞いた。さらに、「狹山市の自慢できる点」を自由記入欄を設けて聞いた。次に、第1回・第2回アンケートの回答で、モニターの意識が高かった事柄をいくつか取り上げ、自由記入欄を設けて聞いた。

さらに、「環境モニターになり全3回のアンケートに回答したことによって、居住環境についての関心・認識が高まったと思うか」と聞いたところ、40名の回答者中24名が「はい」と答えている。アンケートに継続的に回答させることによって、居住環境に対する意識を向上させる効果があったと考えられる。次に、「それはどのような点においてか」を自由記入欄を設けて聞いた。回答の抜粋を表5に示す。最後に、アンケートに対する意見・質問を自由記入欄を設けて聞いた。

6. まとめと今後の課題

1998年3月に狹山市立中央公民館において環境モニターとの懇談会を行った。5名のモニターが参加した。

環境モニターによる自由記入欄への記入文字数をカウントしたところ、全3回のアンケートの合計は60,024文字であり、1人あたり1,241文字の回答が得られたことになる。この回答をいかに生かしていくかが今後の課題となる。例えば、モニターの意識が高い事柄を回答から抽出し、それを選択式質問として再構成し、同じ地域において改めて無作為抽出によるアンケート調査を行う方法が考えられる。この方法によれば、実際の居住者の意識をアンケート票の質問内容に反映できるだけではなく、大量のサンプル数を確保することが可能となろう。

本研究は、財団法人日本証券奨学財団の助成金によるものである。最後に、アンケートにご協力いただいた環境モニターの方々に深く感謝の意を表します。

引用・参考文献

1) 三浦昌生：環境モニターによる首都圏近郊住宅地の居住環境評価、第13回環境工学連合講演会講演論文集、pp.15～22、1998.1.

*1 芝浦工大大学院博士課程

*2 芝浦工大教授 工博

*3 川本工業株式会社（当時芝浦工大学部生）

*4 YKK AP（当時芝浦工大学部生）

表2 住まい周辺の満足度の自由記入欄の回答（抜粋）

「安全性」

- ・川沿いの道には横断歩道も信号もなく、車がスピードを出すので危険。また、街灯が暗く、歩くのが不安である(8)。
- ・道幅が狭いのかかわらず、ダンプカーなど大型車が猛スピードで駆け抜け危険であり、子供は歩かせられない(49)。
- ・歩道が完全に確保されていないので、歩行者は常に危険を承知で歩行しなければならず、特に高齢者には不向き(52)。

「快適性・健康性」

- ・空気がとても乾燥している(7)。
- ・航空自衛隊基地が近いので、飛行機の騒音が気になる(8)。
- ・すばらしい雑木林があるが、開発されて減っている(26)。
- ・夜間、公園で若者が騒ぐ音が気になるが、注意しても無駄と考えあきらめている(33)。

「ダイオキシンの問題もあり、空気が気になる(49)。

- ・山や林へのゴミの不法投棄が大変多くなっている(51)。

「利便性」

- ・ニュータウンの為とにかく住宅ばかりで、店舗が少ない。歩いていくには遠いし、車なしの生活は考えられない(8)。
- ・国道の渋滞でバスがいつも遅れてくる(12)。
- ・自然が多い分、不便は覚悟の上で移り住んできたので、利便性に対して不満には思いたくない(28)。
- ・電車・バスの最終時刻が早く、タクシーの利用が増える(33)。

「コミュニケーション」

- ・代々住んでいる農家の人たちと、移り住んできた人たちとの間に考え方の違いがあるため参加したくない(12)。
- ・通勤時間を要するサラリーマンは、プライベートな時間を確保することさえ不十分で、周辺のコミュニケーションにまで気が回らないのが現状である(33)。
- ・プライバシーを守ることに重点が置かれコミュニケーション不足と思うが、さっぱりして良いと感じることもある(37)。

表3 ダイオキシン問題についての自由記入欄の回答（抜粋）

- ・有害物質で目に見えないものなので、私たちの身体への影響はどうなっているのかと非常に心配である(13)。
- ・焼却場から離れているためか深刻に考えていない(25)。
- ・行政からの情報があまり多くない。最近になって広報紙で特集するようになったという程度である(51)。

表4 航空自衛隊基地についての自由記入欄の回答（抜粋）

- ・慣れてしまい、飛行機の音は感じなくなっている(6)。
- ・毎日ではないが、時々、飛行機の爆音には閉口する。生活者として精神的にかなり負担になっている(10)。
- ・広大な土地をもっぱら軍事目的のために占有する基地は、まちづくりの障害になっている(18)。

表5 環境モニターになり居住環境についての関心・認識が高まった点の自由記入欄の回答（抜粋）

- ・もっと狹山市を知りたい。もっと狹山市を良くしたい。自分のできる事は何かを考えようになった(18)。
- ・同じ狹山市内でも、それぞれの地域の環境に違いがあり、過ごし方、考え方にも違いがあることを認識した(29)。
- ・日頃、環境を考える機会が少なかったが、アンケートを通じて改めて自分の住む地域を考えることが出来た(33)。
- ・今回のアンケートは、道を歩くとき、車を運転するとき、ゴミを出すとき等、日常生活の中でまわりを見渡し見つめ直す良い機会になったと思う(39)。
- ・日頃、あまり地域との関わりがないので、他の住民の声を体系的に認識することが出来た(50)。

上記（）内の番号は、表1中のモニター番号と一致する

Graduate School, Shibaura Institute of Technology

Prof., Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.

Kawamoto Industrial Co., Ltd.

YKK Architectural Products